

# マレーシア・イポーのロングステイ事情

## － 2013年8月現地調査をもとに－

黒田 明雄

倉敷芸術科学大学産業科学技術学部

(2013年10月1日 受理)

### 1 はじめに

ロングステイ財団の「調査統計2013」には、長期滞在査証を発給する20の国・地域の情報が掲載されている。その中で、マレーシアは一定条件を満たす外国人に10年間の査証を発給している。財団の調査によるとマレーシアは7年連続日本人のロングステイ希望国1位となっている。日本人のMM2Hビザ取得滞在者の大半は、退職シニア世代の夫婦であり、セカンドホーム<sup>1)</sup>と呼ばれている。



写真1 イポー駅

マレーシア政府観光省は、日本市場に着目し、東京と大阪にマレーシア政府観光局を設置して観光誘致に努めている。大都市を中心にマレーシア・ロングステイセミナーが年間を通して相当数開催されている。また、近年の動向を踏まえて、マレーシア政府観光省とロングステイ財団との共催で、首都クアラルンプール（以下KL）（2011）、イポー（2012）、マラッカ（2013）の各都市において下見を日程に含めた現地セミナーも開催されている。

筆者は日本人がロングステイ先に選ぶマレーシア各地域の調査やセカンドホームからの情報収集を継続的におこなっている。最新情報をもとに、財団の登録講師&登録ロングステイアドバイザー<sup>2)</sup>として、ロングステイフェアやセミナー、個人的な相談依頼、問い合わせに対応している。

本稿では、震災以降、セカンドホームが増加傾向にある地方都市イポーに焦点を当てた。MM2Hビザ取得件数の増加に伴い相談内容も多様化している。アドバイザー活動上、情報の更新と実態把握の必要性が求められている。

本稿の目的は、イポーの総合的な生活インフラ<sup>3)</sup>の現状と課題を把握し、MM2Hビザ滞在者のための相談活動に還元することである。調査滞在期間中<sup>4)</sup>に、マレーシア政府観光省、同政府観光省公認MM2Hビザ申請代理店、KL日本人会、私立総合病院、交通機関、日系スーパーなど関係機関で情報収集をおこなった。また、生活実態を把握するためセカンドホームにインタビューを実施した。<sup>5)</sup>（2013年8月1RM ≒ 31円 マレーシ

ア通貨 RM リンギット)

## 2 イポ어의概況

マレーシアはマレー半島(西マレーシア)に11州、ボルネオ島(東マレーシア)に2州の計13州から成る国である。イポーはペラ州(ペラ:マレー語で錫の意味)の州都であり、首都KL、ペナン島のジョージタウン、ジョホールバルにつぐ都市である。北緯4度、KLから北西約200kmに位置し、平均気温は約28度と年中真夏の気候である。KLやペナン、キャメロンハイランドなどへは中長距離バスや自家用車で容易に移動できる位置にある。

イポーの地名は原住民オランアスリが使用する吹矢の毒液をとる樹木の名に由来する。イギリス統治時代19世紀後半、錫の採掘が始まり、中国人労働者の入植でにぎわい鉱山の町として急成長した。世界的な錫の需要を背景にイポーは錫の生産地となった。現在は家電生産へと産業構造は変化し、かつて錫を採掘した名残はキンタ渓谷などに見られる。

イポーは、キンタ川の西側にイギリス統治時代の建物や福建様式の建物が残る旧市街側、東側に現在の町の中心である新市街が広がっている。マレーシア全体の人口構成は、マレー系6:中国系3:インド系1であるが、イポーは中国系7:マレー系2:インド系1で、中国系マレーシア人が多く住む約70万人の地方都市である。

イポー駅の南西1キロの位置に日本人墓地があり、明治・大正・昭和の3代で100を超える墓石が管理されている。日本軍占領当時、軍司令本部が、旧市街のセント・マイケル学院に置かれていた。

市内の高層コンドからは小規模な桂林を思わせる山々が見える。緑豊かな自然があり、空気や水に恵まれている。年間を通して民族行事が見られ、異文化を体感できる。しかし、

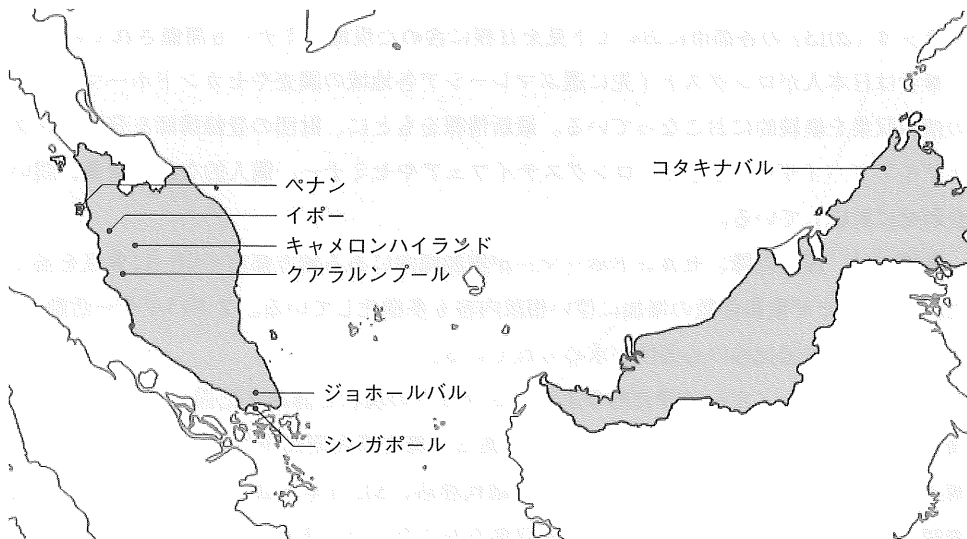


図 マレーシアのロングステイ地

KLに比べて、観光の対象となるものや文化施設は多くない。

### 3 イポールの交通機関とアクセス

#### 1) エアアジアX

エアアジアはマレーシアの航空会社である。LCC (Low Cost Carrier)、つまり格安航空の代表格とあってよい。エアアジア X は大型機導入の長距離国際線のことである。

セカンドホームはこのLCCエアアジア X の羽田HND / 関空KIX ~ KL・LCCT間の就航を歓迎し、有効に利用している。

現在、エアアジアは、KLIA (KL 国際空港) から離れたKL-LCCT (格安航空専用ターミナル) を利用している。更なる利便性を求めて、KLIA に新たな格安航空専用ターミナル (KLIA2) を増設する工事を進めており、2014年5月の開業を目指している。新KLIAが完成すれば、アジアの拠点空港として利用価値がさらに高くなるであろう。

#### 2) 長距離バス

イポーへの長距離バスルートは複数ある。

エアアジアでその日の夕刻KL・LCCTに到着後、イポーへの直行バスを利用する。到着通路を通り空港出口の前に、長距離バスの乗車券販売ブースがあり容易に購入できる。エアアジアの発着に合った運行便があり、所要時間は約4時間である。ただし、荷物の積み下ろしはセルフサービスで、車内アナウンスもない。



写真2 アマンジャヤ・バスターミナル

別ルートでは夕刻着のLCCTからKLセントラル駅に移動して駅付近で宿泊する。明朝、KLセントラル駅から電車を乗り継ぎ、プラザラクアット Plaza Rakyat 駅で下車し、ブドラヤバスターミナル Puduraya BT へ向かって歩く。そこからイポー行きの直行バスに乗る。LCCTからKLセントラル駅までは、バスで約1時間、9RMで早朝から深夜まで30分毎に運行している。ブドラヤ Puduraya BTではターミナル2階に北部方面行きの乗車券販売ブースがあり、乗車ホームは地下にある。バス会社の呼び込みの男性が行き先を大声で発している。運行本数が多いので、通常は予約の必要はなく、容易に希望時刻の乗車券を購入できる。乗客の状況により発車時刻が前後することがある。イポーへの所要時間は約4時間、20RM程度で購入できるが、バス会社により価格が異なる。

イポールのバスターミナル (BT) は、アマンジャヤ Amangjaya BT である。かつては新市街のはずれのメダン・ゴベン Medan Gopeng にあったが、2012年4月から市外のアマンジャヤに移転した。

### 3) マレー鉄道

KL セントラル駅からイポー駅までは ETS (急行列車) で約 2.5 時間である。乗車券はマレー鉄道公式サイト<sup>6)</sup> で乗車日の 30 日前から購入できる。乗車券はファーストクラスで大人 32RM であるが、60 歳以上はパスポートの提示で半額になる。イポー駅には 1 日 4RM の駐車場があり利便性が高い。



写真 3 マレー鉄道

### 4) イポー市内の交通手段

市内を走る電車や地下鉄はなく、公共交通機関としてローカルバスがある。イポー駅の南 0.5 キロ地点に Ipo Main BT がある。ターミナルには乗車券販売ブースはあるが、市内のバス路線図や時刻表の表示はない。バス停にも案内表示がない。利用する場合には、行き先付近の目印を伝え、どのバスに乗るのか、どこで降りるのかを複数の人に確認することが必要である。市内を走るバスは 1~2RM と安価であるが、非常に利用しにくい。



写真 4 ローカルバス

タクシーは、KL のようなメーター制でなく交渉制である。言葉のできない外国人が、運賃相場を知らずにタクシーを多用すると結構高くつく。携帯電話で呼び出せるなじみの運転手をつくっておくことは生活の知恵である。交渉制は煩わしいが、見方を変えれば、時間を要しても折り合った価格で済むというよい面もある。

イポーは公共交通機関が発達していないので、セカンドホームの多くは、MM2H ビザ取得の特典を利用して、使用していた中古車を免税で輸入したり、現地生産車を購入したりしている。バスやタクシーの利用の煩わしさを考えると、イポーでの長期滞在には自家用車は必需品である。一方通行の多いマレーシアでは、現地で使えるガーミン社のナビも必需品である。自家用車は、現地で部品供給や修理の可能な車種を所有することもポイントとなる。

## 4 MM2Hビザ取得状況とイポーでの滞在状況

マレーシア政府観光省の公表資料によると、日本人の MM2H ビザ取得件数は、2010 年 195 件、2011 年 423 件、震災の翌年 2012 年 816 件と増加傾向にある。(表 1 表 2) 2011 年と 2012 年には震災の影響もあって、日本は最大の取得国となっている。

在マレーシア日本国大使館<sup>7)</sup>に届出(2011.10.1)があった全土の在留邦人数は 10,401 人である。ペラ州には 346 人が滞在し、その内訳は日系企業の駐在員とその家族、セカン

ドホーマーと考えられる。日本人学校がないイポーには、学齢期の子供はほとんどいない。届出人数の推移をみるとペラ州の邦人数は増加傾向にある。

近年、KLやペナン、キャメロンハイランドのセカンドホーマーが、何組もイポーに引っ越してきている。イポーで滞在生活を送るセカンドホーマーの数は、増加傾向にあるが、在留届未提出等の場合があり正確な人数は不明である。

MM2H ビザ申請代理店や滞在期間の長いセカンドホーマーへのインタビューでは、100組 200人という数字も聞かれた。イポーでは4月～6月のゴルフ場は空いてプレーしやすくなるそうである。7月～9月や11月～3月は、日本人プレーヤーが増えるそうである。したがって上述の数字は、避暑避寒を兼ねてゴルフ目的で滞在生活を送るビザなしロングステイヤーを含むものと考えられる。

表1 MM2H ビザ取得上位国

順位	国・地域	年												合計	割合 %
		2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013 (4月)		
1	中国	241	521	468	502	242	90	120	114	154	405	731	303	3,891	18.2
2	日本	49	99	42	87	157	198	210	169	195	423	816	238	2,683	12.5
3	バングラデッシュ	0	32	204	852	341	149	68	86	74	276	388	72	2,542	11.9
4	イギリス	108	159	210	199	209	240	208	162	141	153	125	46	1,960	9.1
5	イラン	0	2	8	7	9	59	227	212	227	286	201	12	1,250	5.8
6	シンガポール	96	143	91	62	94	58	48	61	73	78	83	48	935	4.4
7	台湾	38	95	140	186	63	31	16	36	49	70	85	30	839	3.9
8	パキスタン	9	55	82	104	36	31	65	103	77	136	100	17	815	3.8
9	韓国	5	12	66	60	65	152	86	54	49	64	83	30	726	3.4
10	インド	45	123	118	80	51	46	32	35	51	50	56	16	703	3.3
11	その他	227	404	488	476	462	449	432	546	409	446	559	187	5,085	23.7
	計	818	1,645	1,917	2,615	1,729	1,503	1,512	1,578	1,499	2,387	3,227	999	21,429	100

出所) マレーシア政府観光省公式サイト「MM2H」統計より筆者作成。http://mm2h.gov.my/statistic.php

表2 2012年MM2H ビザ取得上位国

順位	国名	合計	割合 %
1	日本	816	25.3
2	中国	731	22.7
3	バングラデッシュ	388	12.0
4	イラン	201	6.2
5	イギリス	125	3.9
6	パキスタン	100	3.1
7	オーストラリア	97	3.0
8	台湾	85	2.6
9	韓国	83	2.6
10	シンガポール	83	2.6
11	その他	518	16.1
	計	3,227	100

## 5 ロングステイ・サポート会社

マレーシア政府観光省の認可を受け、主に日本人を対象にMM2Hビザを申請代理できる会社は、マレーシア全土で約10社ある。イポーには、ビザ取得から滞在生活を総合的に有償サポートするMM2Hビザ申請代理店のハイビスカス(HIBISCUS NEW LIFESTYLE)<sup>8)</sup>がある。ロングステイでは、自立した生活を心がけ、危機管理への備えをし、状況に応じてこのようなサポート会社を利用する基本姿勢が重要である。いざという時に、深夜でも対応してくれるサポート会社があることは、安心感につながる。

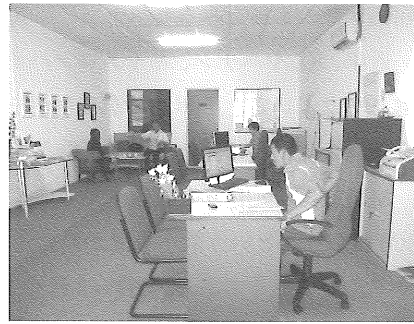


写真5 MM2Hビザ申請代理店  
ハイビスカス

この会社は、日本に留学経験のある中国系のG氏によって、2006年に設立された。オフィスはアマンジャヤのAmanjaya BT付近にあり、各言語に対応できるスタッフを数名雇用している。氏は日本人の習慣を理解し、日本語、英語、中国語、マレー語が話せ、セカンドホームに頼りにされている存在である。顧客の大半は日本人で、会員制で滞在生活をサポートするビジネスをしている。

会社設立当時は顧客は3組であったが、現在、約25組の生活を総合的にサポートする会社になっている。2012年にロングステイ財団の海外サロンの認定を受け、イポーでマレーシア・セミナーを開催する際に重要な役割を担っている。

長期滞在に必要な情報は、イポーの住宅や病院などの生活に関わる総合的な情報である。個人のブログに散見する情報はみられるが、当地には生活の手引きとなるような冊子はない。唯一、このビザ申請代理店ハイビスカスの日本語ホームページには、有益な情報の掲載があり、有償サービスの内容、料金が明示されている。ロングステイは生活を伴うもので、賃貸契約、各種料金の支払い方法、病院での通訳、車の輸入、遺言作成など、必要な情報の範囲は広い。勤務時間外の緊急呼び出しには、会員専用の携帯電話で対応している。

MM2Hビザ申請代理店では、日本人同士の人間関係のトラブルや過度なオーナーとの交渉などの問題も抱え込むことがある。当地にも類似する問題があることを確認した。日本人社会は意外と狭く、当然、日本人との付き合いの頻度は高くなる。自立した生活を送るセカンドホームは、一定の距離間を保ち、上手な付き合い方を身につけている。セカンドホームの増加とともに、サポート会社の業務は、時にプライベートな問題へ対応を求められ多様化している。

## 6 住居情報

2012年8月の為替相場は1RM ≒ 26円であったが、2013年8月は1RM ≒ 31円と円高から円安に推移した。また、マレーシア経済の成長に伴いKL市内の賃貸価格も上昇傾向

にある。年金を主な財源とするセカンドホームにとっては、会社が背後にある駐在員と異なり、家賃の値上げと為替相場は生活に大きな影響を与える。調査期間中にKLからイポーに引っ越し中のセカンドホームに出会った。

地方都市イポーは、KLやベナンに比べて賃貸用コンドミニアムは数少ない。MM2Hビザを取得して、初めて賃貸ユニットを探すセカンドホームは、ビザ申請代理店ハイビスカスの仲介する不動産会社の情報に頼る場合が多い。語学が堪能で情報収集と交渉ができる人は、部屋探しから契約書の作成までを自力でおこなっている。

滞在目的がゴルフ重視派とそうでない派によって住むエリアや住居は2分される。

ゴルフ重視派は、市内から北に20分程度の市外に位置するアマンジャヤ Amanjaya BTやビザ申請代理店ハイビスカスに近いエリアに住んでいる。その近郊にメルバレーがあり、敷地内にゴルフ場がある。ゴルフ・ビスタ・コンドやテラスハウスもある。契約期間とゴルフ権の有無で約2700～3500RM/月と賃貸料に幅がある。早朝の涼しい時間帯にゴルフを楽しむ環境は整っている。メルバレーには、セカンドホームに加えて、ゴルフを目的として月単位で滞在するロングステイヤーが相当数いる。また、メルバレーまで車で数分の距離のメル・インペアナにサービスアパートがある。2LDKで年契約1000RM/月である。契約は短期よりも年契約の方が月単位の費用が安くなる。年金を主な財源として賃貸経費に充てる人にとって、この価格は魅力である。メルバレーの他に、市内にはペラ・ロイヤル・ゴルフ場もある。

ゴルフが主目的でない派は、イオンやテスコという大型総合スーパーがある新市街のエリアに住んでいる。このエリアには日本料理店や私立総合病院がある。イオンの北1キロに高層2棟建てのプリンチャン・プリマ・コンド(旧名キアラ・コンド IPO KIARA COND)があり、年契約1400RM～/月である。駐在員も住んでいる。KLと比べると、月額で約500～1500RMの節約ができ、年間では大きな額になる。また、イオンの西側のカニング・エステイト通り周辺には、賃貸可能なテラスハウス、セミディタッチ、バンガローがある。賃貸料を抑えたい人やペットと住みたい人向きであるが、自身での防犯対策が必要である。

当地のいずれのエリアの住居でも、電気は安定的に供給されていてインターネットもつながりやすい。日本の自宅に設置したSlingbox<sup>9)</sup>をノートパソコンやタブレットで操作し日本の地方テレビ番組や録画番組の映り具合を確認したが、問題なくリアルタイムで視聴できた。



写真6 キアラ・コンド

## 7 病院情報

ロングステイアドバイザーに相談したい内容のトップは医療情報である。

マレーシアで医療水準の高い病院は私立の総合病院である。専門医が部屋を借りて開業するオープンシステムであり、患者が医師を指名することが普通である。私立総合病院は現地の富裕層が利用する病院である。海外旅行保険やクレジットカードの提示により支払い能力が確認されて、はじめて受診できる。



写真7 パンタイ私立総合病院

毎年、KL日本人会の会誌4月号には、KL近郊のクリニックや私立総合病院の情報が掲載される。また、生活情報誌『ハローマレーシア』（2013.8付発行）にも医療・病院情報が掲載されている。イポーにはKLのように、病院情報の記された冊子はなく情報の蓄積が見られない。

イポーで評判のよいパンタイ病院（PANTAI HOSPITAL）、KPJ病院（IPO SPECIAL HOSPITAL）、ファターマ病院（FATIMAH HOSPITAL）を訪問し施設を見学したところ、日本のように無料で救急車を呼べ、症状に応じた病院へ搬送してくれるシステムはない。各病院の救急車を要請すれば有料である。各病院の専門医の情報は、病院内の掲示、パンフレット、病院HPから得ることができるが、緊急時に備えた<sup>10)</sup>情報収集が必要である。KLの各私立総合病院のように日本人通訳は勤務していないし、日本語ホットラインもない。つまり患者には医師と意思疎通がとれる最低限の英語力が求められる。ビザ申請代理店ハイビスカスのG氏は、会員に頼まれてパンタイ病院で通訳をする場合があると言う。

かぜ、発熱、腹痛などの病気であれば、口コミ情報で評判のよいクリニックを利用する人もいる。私立総合病院に比べて安価なので現金払いで済ませる人が多い。

滞在期間の長期化に伴い健康診断も必要になる。定期的に日本に帰国して健康診断を受ける人もいるが、ビザ申請代理店がコーディネートする病院で健康診断を受ける人もいる。

## 8 食材・生活物資の購入

生活インフラ調査のポイントのひとつは、日本の食習慣を維持するための食材や調味料が、どこでどの程度入手できるかを確認することである。セカンドホーマーは、ロングステイに慣れるに従い、日本食の健康的よさを再認識する人が多い。幸いなことに、イポーには総合スーパーのイオン、テスコ（英国資本）、ジャイアント（香港資本）、マイディン（モスリム対象）がある。また、現地の人が利用している市場では、野菜や果物などの生鮮食料品が購入できる。



現在、マレーシアに日系イオンは58店舗あり、イポールには2店舗ある。イオンは、マハティール元首相のマレーシアの流通近代化や生活向上への要請に応じ出店した。ショッピングセンターの機能を有し、さまざまな店が入っている。いずれも郊外型で大きな駐車場が整備されている。客層の中心を中国系マレーシア人の中流層においている。買い物客の大半が、自家用車でやってくる。



写真8 イオン

イオン キンタシティ ショッピングセンター (AEON KINTA CITY SC) は、1997年7月に開業し、新市街の北東にある。2012年4月からイオン イポー ステーション18 (AEON IPO STATION 18 SC) が市内中心部より南6キロ地点で営業を開始した。イポールの都市再開発の中心的商業施設の役割が期待されており、銀行、郵便局、映画館、書店、ダイソーの5RM ショップ、寿司店、その他のレストラン、フードコートなど生活にかかわる約170の専門店が入っている。あ



写真9 寿司コーナー

らゆる世代のニーズに応えようとする大規模な総合スーパーである。館内は涼しく現地の人の憩いの場や娯楽施設にもなっている。

日本食材コーナーには、イオントップバリュー商品も並び、少し価格は高いが、基本的な調味料や食材は揃っている。寿司コーナーでは、健康食として日本食が受け入れられていて、現地の人が寿司の詰め合わせパックやバラ売りの握り寿司を買い求めている光景が見られる。2012年8月のジョホールバル調査の際にも同タイプのイオン店舗を確認した。ほぼ何でも手に入ると言っても過言ではない。イポールには日本料理店が10店程度あり、駐在員やセカンドホームーだけでなく現地の中国系マレーシア人にも利用されている。

飲料水に関しては、水道水を飲む人はほとんどなく、自宅に20ℓのミネラルウォータータンクを購入している人が多い。

## 9 遺言情報

セカンドホームーの中には不幸にも、ロングステイ先で不慮の死を遂げる人もいる。筆者の知人もその一人である。一般的にセカンドホームーは、ビザ取得条件によりマレーシアの複数の銀行口座に15万RM以上の保証金を預けている。普通預金は年利約3%あり、一定額の預金をして、その利子を家賃に充てている人もいる。車社会のマレーシアでは、多くのセカンドホームーが自家用車を所有している。一部に不動産を所有する人もいる。

これらの資産は、夫婦間であってもマレーシアの法律にのっとった遺言書がないと相続が困難になる。

重要な点は、遺言の作成、保管、執行をセットで引き受ける専門会社に委ねることである。この対応が可能なのはマレーシアでは、Rockwills と Amanah Raya の 2 社である。この 2 社は信託会社法と中央銀行が遺言の永久担保を保証している。筆者は、それぞれの会社で遺言をセットで依頼した 2 組のセカンドホームーにインタビューをおこなった。

Rockwills はマレーシア最大の民間会社で主な顧客は非モスリムである。同社を選択した英語が堪能な 70 代のセカンドホームーは、宣言信託 (Declaration of Trust)<sup>11)</sup> というやり方で契約している。POWER OF ATTORNEY と表記のある遺言書の記載内容や費用、執行などについて確認した。万が一の際にはカードの連絡先に連絡すれば、相続人は預金が凍結されることなく 2~3 日で引き出せることになっている。本社は KL の Klang Lama 通りの警察署の隣にある。

Amanah Raya はマレーシア政府系の機関で各地に事務所があり、主な顧客はモスリムである。同社を選択した 60 代のセカンドホームーは、必要な情報を自力で収集できる人である。KL の Ampang 通りの Amanah Raya のスタッフと直接やりとりをして遺言書を作成していた。オリジナルは Amanah Raya が保管し、コピーを日本にいる相続人の息子と娘も持っている。

2 組のセカンドホームーは自力で Rockwills と Amanah Raya の 2 社で遺言の作成、保管、執行を依頼している。一連の費用は日本よりもかなり安価である。Rockwills よりも Amanah Raya の方が少し割安である。自力ですることには不安がある場合は、遺言のサポートの豊富な経験を有する人<sup>12)</sup> に助けを求めることを勧める。

## 10 余暇利用とサークル

イポーは、KL 日本人会のようにセカンドホームーも参加できる各種のスポーツや文化のサークル活動は少ない。セカンドホームーの間では、イポーでロングステイとえば、メルバレー・ゴルフ・コンドを連想する人が多く、メルバレーの住まいを選択する人は、ゴルフを週のスケジュールや日課に入れている。メルバレー内のコンドでは、任意の陶芸グループがある。

ゴルフ以外には、ビザ申請代理店ハイビスカスが提供する会員交流の場がある。ハイビスカスのオフィス内の一室に英会話教室があり、また、月 1 回程度の観光を兼ねたグルメツアーがある。

セカンドホームーは、滞在生活の長期化に伴い、ゴルフ、習い事、ボランティア、趣味、旅行などをスケジュールに組み込み、生活パターンを決めている。KL から移動したあるセカンドホームーは、家賃差から生じる金額を日本への一時帰国等の航空運賃に充てるなど、有効に活用していた。

日々の生活をどのように過ごすのか、何のためにロングステイをするのか、明確な目的がないとロングステイは長続きしない。

## 11 おわりに

本稿の目的は、イポーの総合的な生活インフラの現状と課題を把握し、アドバイザーの相談活動に還元することである。

情報は2013年8月に行った現地調査やインタビュー調査により収集した。その際、関係機関やMM2Hビザを取得したセカンドホームの協力を得た。

その結果、以下のことが明らかになった。

- ・ 地方都市イポーには、ロングステイのサポート会社は一家があるが、KLのような生活の手引きとなるハンドブックはない。
- ・ 公共交通機関が発達してなく、滞在生活には自家用車の必要度が高い。
- ・ ゴルフ環境は恵まれているが、参加可能なスポーツや文化のサークル数は少ない。
- ・ 私立総合病院があるが、日本語対応のできる医師やスタッフは勤務していない。
- ・ 日本の食材や調味料の購入には、日系イオンがあり困ることはない。
- ・ 年金生活者にとって、他地域よりも賃貸住居費はかなり抑えられる。
- ・ KLのように総合的なインフラは整っていないので語学に自信がない人はサポート会社を上手く利用することで不安を軽減できる。
- ・ 相続問題を困難にしないために宣言信託という遺言書が有効である。

## 注及び引用文献

- 1) セカンドホームとは、MM2Hビザ (Malaysia My Second Home Program の略、正式には Multiple-entry Social Visit Pass, 10年間出入りが認められた長期滞在ビザ) を取得し、マレーシアで滞在生活を送る外国人のことである。ロングステイにはタイプがある。セカンドホームもロングステイヤーであるが、3ヶ月未満のビザなしロングステイヤーと区別している。
- 2) 登録ロングステイアドバイザーは、財団法人ロングステイ財団主催で研修講座を受講し一定水準を認められると登録される。筆者は2008年に登録ロングステイアドバイザーとなり、相談活動の一翼を担っている。アドバイザーとなる人は、FPの資格を有する人や旅行業界に勤める人のほか、駐在経験やロングステイ経験のある人が多い。2012年に財団の審査を受け、財団の講師としても登録されている。
- 3) インフラ：インフラストラクチャー (infrastructure) の略。国家・社会などの経済的存続に必要な基本施設を意味する。この言葉は既に市民権を得ていると考え使用した。背後に会社という組織のある駐在員と異なり、ロングステイヤーは自己責任で行動しているため、滞在国滞在地におけるサポート機関、医療、住居等々の情報が重要である。
- 4) 今回のイポー・ロングステイ調査期間2013.8.8～14は、マレーシア調査を2009年に開始して5回目の調査になる。前回のイポー調査は2010.8.18～22におこなっている。
- 5) インタビューに協力をいただいた3組のセカンドホームは、滞在歴3年の60代の夫妻 (2013.8.8)、滞在歴4年の60代の夫妻 (2013.8.13)、滞在歴10年を超える70代の夫妻 (2013.8.10) である。
- 6) <http://www.ktmb.com.my/> マレー鉄道公式サイト (日本語表示有)
- 7) <http://www.my.emb-japan.go.jp/Japanese/ryoji/census/2012.htm> 在マレーシア日本国大使館、マレー

シア在留邦人数の調査結果。旅券法で3ヶ月以上滞在する場合は届出が義務付けられ、毎年10月1日現在の届出数である。届出を出さない人や出しても帰国したことを届出しない人もいるので正確な人数の把握はむずかしい。

- 8) <http://www.ipoh-hibiscus.com/Ipoh-life.htm> MM2H ビザ申請代理店 HIBISCUS NEW LIFESTYLE . 会社のサイトにはセカンドホームやロングステイヤーのためのサポート情報が掲載されている。
- 9) 黒田明雄「マレーシア・ジョホールバルにおけるMM2Hビザ取得件数増加の要因と生活インフラ事情」倉敷芸術科学大学紀要第18号, 145-146頁, 2013. Slingboxによるテレビ視聴を参照のこと。
- 10) 前掲書9) 141-142頁。病院を利用することを想定した緊急時の備えのポイントを参照のこと。
- 11) 宣言信託は、残された人にトラブルも遅延もなく財産が譲渡される方法である。夫婦の一方が亡くなった場合でも夫婦同時死亡の場合でも、配分を記載しておけば信託受益者にスムーズに譲渡されるものである。
- 12) 阪本恭彦・洋子『マレーシアに定住でご褒美人生』カナリア出版, 212-214頁, 2010. に鴨谷直樹氏の遺言情報が記載されている。

#### 参考文献

- 阪本恭彦・洋子『マレーシアに定住でご褒美人生』カナリア出版, 212-214頁, 2010. 鴨谷直樹氏の遺言情報。  
<http://blogs.yahoo.co.jp/telemon6/folder/967994.html> MM2H ビザ申請代理店 STEP1Malaysia.com の遺言書作成情報。
- 大田真治「イオンマレーシアの戦略」『総合政策論叢』第2巻, 47-62頁, 2011.
- AEON NEWS RELEASE「AEON Ipo Station 18 ショッピングセンター開店」イオン株式会社, 2012.4.10.  
[www.hosei-hurin.net/kiyou/chiiki\\_pdf/.../vol04\\_035-046.pdf](http://www.hosei-hurin.net/kiyou/chiiki_pdf/.../vol04_035-046.pdf) 稗田奈津江ほか3名「マレーシアマイセカンドホームプログラム政策の妥当性：日本人セカンドホームの視座から」『地域イノベーション』第4号, 35-46頁。
- 山田美鈴『マレーシアで暮らしたい』講談社, 2012.
- 永田聡子『マレーシアでロングステイ』イカロス出版, 2013.
- 澤野井隆編「イポー特集」『LONGSTAY 2013 夏号』一般財団法人ロングステイ財団, 8-9頁, 2013.  
 財団法人ロングステイ財団編『ロングステイ調査統計2013』(財)ロングステイ財団, 2013.  
<http://www.mm2h.gov.my/> Malaysia My Second Home Program Official Website Ministry Of Tourism Malaysia.

## Situation of Japanese Longstayers in Ipoh, Malaysia — On the Basis of Fieldwork in August 2013 —

Akio KURODA

*College of Science and Industrial Technology  
Kurashiki University of Science and the Arts,  
2640 Nishinoura, Tsurajima-cho, Kurashiki-shi, Okayama 712-8505, Japan*  
(Received October 1, 2013)

The purpose of this paper is to explore the living situations and general infrastructural problems for longstayers in Ipoh, Malaysia. I sincerely hope that my research will help future longstayers through my activities of advice. My fieldwork to collect information was done in August 2013, with the aid of agencies concerned and longstayers who had already hold MM2H visa.

The following was clarified.

1. There is only one support company for longstayers in Ipoh. Although there are handbooks in KL which assist longstayers' living, there is not such a handbook in Ipoh.
2. Public transportation is not so developed that longstayers are required to possess their own cars.
3. There is high quality of golf courses. Except for golf, the number of club activities for sports and culture which longstayers can enjoy is very few.
4. There are some private general hospitals. But doctors, nurses and other stuffs cannot speak Japanese at all.
5. Ingredients and seasonings for Japanese food are available because there are some Japanese supermarkets.
6. Rent in Ipoh is lower than in any other places. That is good for pensioners.
7. General infrastructure is not available enough for longstayeres. Those who have no confidence in languages should make use of the support company to ease their anxiety.
8. A will like "Declaration of Trust" is useful to avoid making inheritance difficult.